

# 銀河

全北海道退職教職員の会網走支部通信

No.85

2012年5月10日

道退教網走支部事務局

〒090-0836

北見市東三輪1丁目83-35

TEL 0157-31-7551 F ax0157-31-7559

## 入会おめでとう (池さん、石崎さん、中山さん)

道退教網走支部支部長 木村正寿

3人の皆さん、入会おめでとうございます。

長い間の教職員生活を終えてこれからの人生に向けて、多くの希望(夢)を持っていることと思いますが、これからは、そのうちの何割かを我々と一緒に歩み続けてもらいたいと思っています。

現職中は

①10年以上(14年?)におよぶ年収減と、それに伴う退職金や年金の減少。

②民間労働者の劣悪さを目隠しさせる公務員攻撃。

③新しい「指導要領」になってからのやりにくい教育と労働環境

のなかで日夜奮闘し続けたことに敬意を表します。退職した今“しばらくはのんびり生活したい”と願っていることと思いますが、現実はそうも言っていられない状況です。

①医療、介護の保険料値上げと年金の切り下げ

②「社会保障」を理由にした消費税増税

③「原発・放射能」による被害と汚染の拡大

④アメリカの都合の良いように大改造されてしまう「TPP」への参加や自衛隊海外派兵の増加

等々・・・。「生活」や「平和」はおびやかされ続け、だまってはられない状況が次々とおそってきています。

私たち道教組の結集する退職教職員は「楽しみ7分、活動3分」を合言葉にそれぞれの地域で活動を続けています。

健康に留意し「豊で充実した退職後の生活」を仲間とともに励ましあいながら、いきいきと活動し続けることを願い歓迎のことばとします。

共にがんばりましょう！！

三十七年を振り返って

石崎 恒芳

このたびの囲む会に出席できず、申し訳ありません。

自分では、いつまでも元気なつもりでしたが三年程前より体調を崩し、残念ながら欠席いたします。

三十七年たち、退職の年をむかえました。どの職場も居心地がよく、いやな思いをしたことはありません。どうしてかなと考えると、どの職場にも北教祖時代には反主流派と呼ばれる先生方がおられましたし、網走教組が結成されてからは組合の先生方がおられたことかなと、思っています。困ったことがあると安心して相談できる先生方の存在は大きかったです。

今まで勤めた学校の思い出は次のようです。

光岳小（四年）では、学級PTAでの斜里岳登山です。下山してから、ある親から「先生、まだ元気そうだね。」と言われた事を覚えています。今では考えられない事です。若かったのですね。

東陽小（十年）では、日刊のように学級通信を出される先生がたくさんおられた事にびっくり。そして年度末には製本されていました。

私も刺激を受け、週刊ぐらいで出し、年度末には真似をして製本したものです。

北小（十七年）では、一学年四学級という児童数の多さにまずびっくり。そして「精いっぱい」という「校是」に沿った難しい（？）研修に四苦八苦でした。最後の二年間は特別支援学級を担任し、苦勞しながらもぐんぐんのびていく子の姿を見られるうれしさは格別のものでした。

端野小（六年）では、職員室の狭さにびっくり。でも家族的な感じでした。

後半、体調を崩した中での勤務は難しいものでした。特に苦手なパソコンを使う仕事は恐怖でした。

組合では初期に会計をしました。決算が合わず明け方までかかった事もあります。

組合には十分貢献できないまま退職をむかえてしまった感がありますがお許しください。





## 嵐も吹けば雨も降る、女の道よ、なぜ厳しい♪ . . .

中山良子

何とか皆様に支えられながら、教職38年間を終えることができました。ありがとうございました。

名前だけの組合員だったように思います。若い時はもっとできたのに、もう少し頑張れないのかなと思ったこともあります。これもわが人生、力の無さと思っています。

三年前、親の介護で走り回り、介護の勉強不足を感じて半年間勉強をしてみました。まだいける！と思っていました。が、やはり無理だったのでしょう。

ラスト一年と言う時に、なんと三連発でからだは悲鳴をあげたのには驚きでした。入院して思ったことは、一見健康そうに思えるのですが、実は年をとるといふ事はそれなりに無理の出来ないからだになっているということでした。恥かしながら自分をよく知っていなかったようです。健康が一番ですね。

これからは、六十五才までの雇用とっていますが、果たして良いことなのかどうか疑問です。勤務時間は長く（七時間四十五分と言われてますが、実際は休憩時間は無いに等しく、八時間四十五分となっています。）だらだらと時間だけが過ぎていく日々のように思いました。エネルギーが持たないのです。家に帰って家事をしたら、もう次の日です。

雇用の問題もありますが、労働者の生活そのものが家庭そのものが危機状態のように感じます。親も疲れていて、そこにおかれている子どもたちはきっと寂しい思いをしているのに違いありません。

なんて感じながらも、後は無理をせず、ゆっくりと退職したいと思います。

課題の多い教育界となりましたが、皆様のご活躍とご健闘を心よりお祈りいたします。



## 「思い出」

北見市立留辺郡小学校

池 橋

### 「その一、振り出し」



網走教育局から突然の電話が入った。採用試験に落ちて、実家でぼんやりしていた3月末。「補欠採用しますので、明日、網走に来て下さい。」「えっ！網走なんて誰が言ったんですかー！」「・・・全道ということですか。」「はっ？！ちょっと家族と相談します。」「・・・この電話を切った時点で、次の人に連絡しますよ。」「い、行きます。明日、必ず行きますから！！」急行に飛び乗った。札幌駅で、稚内に行くと言う先輩と、旭川に向かう同期とばったり再会。「どこに行っても、お互い頑張ろう！！」と励まし合って、別々の夜行に乗った。

### 「その二、転機」

つかまり立ちを始めた二人目の娘が、はいはいも出来なくなりました。



嘔吐と下痢を繰り返し衰弱。環境の変化が原因だった。

「こんなになるまで放っておいたら

ダメじゃないか！知能の遅れ

が出たら、母親の責任ですよ！」その当時の小児科の医者は、母親をがんがん叱り飛ばした。退職を決意し、実家の母に報告。すると、室蘭から両親が飛んできた。「私らが預かってやるから仕事は辞めるな。」その一言で首が繋がった。

### 「その三、決意」



両親を室蘭から連れてきて、早15年。年を取るということは大変なこと。自分の健康診断も怖くて適当なのに、日々の暮らしのサポートや病を看取る事がいきなり降りかかってきた。「仕事を続けて来られたのはお母さん達のお陰。これからは、恩返しをするから安心してね。」母は一言「ありがとう。」と言った。

この決断は、私自身のためなんだよ、きっと！

### 「その四、感謝」

月並みだけれど、組合の仲間がいたからやって来られた。『会議や集会には出来る限り参加する！』そして『仕事の愚痴を言わせてもらう！』この二つが信条。威張って言えることでもないけどね。皆さん、ありがとうございました。頑張ってください！！

# 道退教網走支部

## 総会及び親睦旅行のご案内

とき	2012年 6月13日(木) 14日(金)
ところ	丸瀬布 マウレ山荘
日程	15:00 マウレ山荘集合 (チェックイン後休憩又はパークゴルフ)
	16:30 支部総会
	18:00 夕食・親睦交流会
会費	宿泊 10000円 交流会まで 3000円 (どちらも互助会補助券利用の場合)

申込み 参加される方は、宿泊する・しない 日帰りは総会のみか交流会までかを 6月6日(水)までにブロック幹事に連絡してください。不明な点は 事務局まで

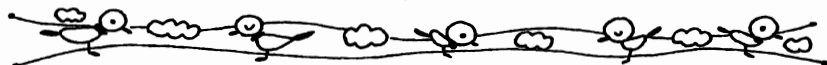
- ・網走ブロック 廣岡雅好 0152-44-6271
- ・北見ブロック 十河暢明 0157-25-2045
- ・遠紋ブロック 田中 功 0158-23-0488

幹事は6月7日(木)までに事務局奥野 TEL0157-31-7676に報告してください。

- \*その後の変更は 11日(月)までお願いします。
- \*交流会の内容は持ち回りで今回は遠紋ブロックにお願いします。
- \*総会に参加される方は議案を忘れないようにお願いします。

今年から総会と秋の親睦旅行が1本化されました。1年に1度のみみんなで集まる機会です。

お互いに声をかけ、車の乗り合わせなどして、多くの会員が参加されますよう期待しています。



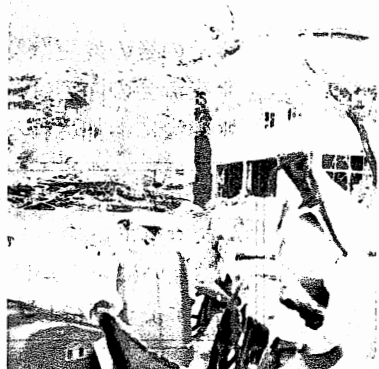
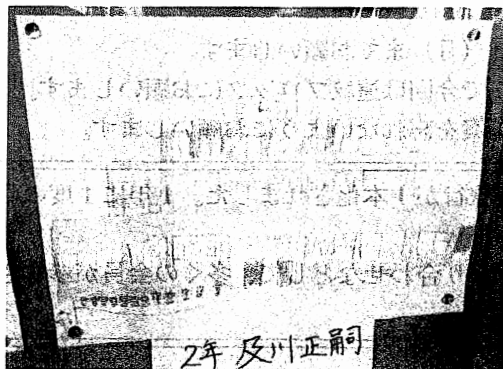
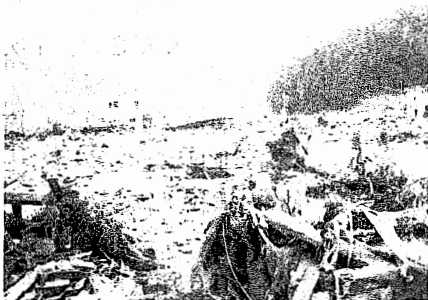
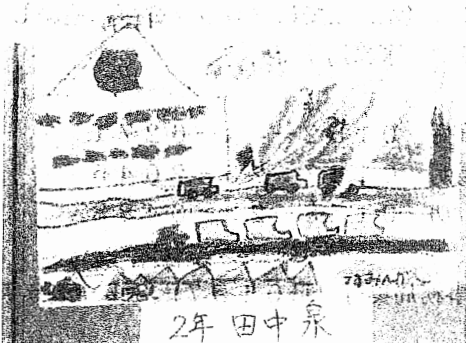
## ボランティア体験記 その4

佐呂間町西富 高谷喜平

5月5日(木)

5日間のボランティアを無事に終え帰る途中、越喜来の廃墟になったガソリンスタンドで小学生が描いた「未来の越喜来の町」絵画が展示されているのが眼に止まりました。地域住民が街の将来像を描くときに、子供のアイデアを参考にと企画したものだそうです。子供たちが描いた絵には、再建したいスーパーや図書館、くだもの店など被災前の町の様子が描かれていました。それから、夏祭りや、大きな病院、学校など発展した越喜来の古里を思い描く絵も並んでいました。

「子供たちも大人たちも絶対に復興するという強い気持ちで災害に立ち向かっている。」そんな強い気持ちが伝わってくる絵でした。



ボランティアに参加して

今回、被災者救援ボランティアに参加でき本当に良かったです。3月11日の大地震・津波によってツタツタに破壊された街の様子をTVや新聞等で毎日見るたび、「何か自分にできることはないだろうか。被災地について何かしなければきっと自分は後悔する！」そんな気持ちで参加をしました。5日間という短い期間でしたが、実際に被災地の様子を目の当りにすると、被害の大きさに身の切られるような思いで悲しくなりました。でも、なぜか感動がいつぱいのボランティア体験でもありました。被災地の人たちは、家や家族そして働く場など生きるためのすべてを失っても、前を見て立ち上がろうとしています。その強さにボランティアの私が励まされました。それから、全国から集まったボランティアの人々の心の温かさに、人間の温かさと優しさを感じることができたからです。

ボランティアの機会を与えてくださった岩手労連の皆さんには本当感謝をしています。

被害の状況をカメラにたくさん収めました。現地の人にはだれもが「是非、この有様を多くの人に見せて欲しい。」訴えるような言葉が印象的でした。また、ボランティアを受け入れている役場や福祉協議会の職員の方々も、自分が大変な被害に遭いながら献身的に仕事をされている姿に心を打たれました。応援のため全国各地から自治体職員が交代で駆けつけているそうです。

地元に戻った5月末、佐呂間町の町議会議長さんと町長さんに「町職員のボランティア派遣」の要請文を渡しました。

四ヶ月を過ぎても、被災地はまだ多くの支援を必要としています。これからも被災地のためにというより、自分のためにという思いが強いですが、自分にできることを継続していこうと考えています。



・視聴覚室に集った40人程の前で、あの詩” --- 逃げる、逃げない。食べる、食べない。マスクをさせる、させない。苦渋の選択が---。H23年9月19日”。茨城から避難しているMさんは淡々と朗読した。辛い事情があるのに平然と見えるが、その気持ちが伝わって目頭が熱くなった。

・この日は3月8日国際婦人デー網走集会だった。

・乳幼児を抱える若いお母さん達が参加していた。「放射線内部被爆から子どもを守るために」のテーマで、DVD上映のあと、子ども達への食材に神経質になっている状況、感想などを交流した。

・「セシウム蓄積の影響を市に訴えた。」「食の見直しをしたい。」「お米が心配。」「情報がほしい。」など、子どもへの想いが伝わってくる。他の方から、「市民にもっと知らせてほしい。」の声も上がった。

・全国の母親達の声が広がり、食の500レクベルが100以下レクベルに下がったことは、運動の成果であること。そして”過度に恐れず、事態を侮らず、理性的に怖る”と、安齋科学

・平和事務所長安齋育郎さんの趣旨が紹介された。

・この声を拡げて行きたいと思った。

・パンと参政権を求めてデモを起こした女性達の願いは今年102年目を迎えた国際婦人デーである。

飯田禎子

## 訃報

吉本 亨様 (網走ブロック)

4月2日 逝去

謹んでご冥福をお祈りいたします。



お知らせ

## うた声 喫茶

とき 5月26日(土) 午後7:00~9:00

ところ 喫茶店「カナ」 Cafe ショップ

(網走市新町1丁目7-6 そばのかね久のとなり)

参加費 500円(1ドリンク付)

問い合わせ先 0152-44-1325 飯田禎子

